

# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	有限会社大輪輸送 一宮配送センター	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県一宮市大和町戸塚字宮崎西1番1、他18筆	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	20人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年7月 予定	評価の実施日	2023年7月5日
敷地面積	13,315 m <sup>2</sup>	作成者	大和ハウス工業株式会社 山本 透
建築面積	2,820 m <sup>2</sup>	確認日	2023年7月5日
延床面積	2,983 m <sup>2</sup>	確認者	大和ハウス工業株式会社 山本 透



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)												
<p><b>BEE = 1.0</b> ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆</p> <p>30%: ★☆☆☆☆ 60%: ★☆☆☆☆ 80%: ★☆☆☆☆ 100%: ★☆☆ 100%超: ★</p> <p>標準計算</p> <table border="1"> <tr> <td>①参照値</td> <td>92 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>②建築物の取組み</td> <td>46</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>③上記+②以外の</td> <td></td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>④上記+</td> <td></td> <td>90%</td> </tr> </table> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	①参照値	92 (kg-CO <sub>2</sub> /年・m <sup>2</sup> )	100%	②建築物の取組み	46	90%	③上記+②以外の		90%	④上記+		90%	
①参照値	92 (kg-CO <sub>2</sub> /年・m <sup>2</sup> )	100%												
②建築物の取組み	46	90%												
③上記+②以外の		90%												
④上記+		90%												

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> Qのスコア = 2.7</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア = 0.0</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア = 2.9</p>	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> Q3のスコア = 2.5</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> LRのスコア = 3.3</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア = 3.5</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア = 3.2</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア = 3.3</p>

3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮 <b>3.4</b></p>	<p>③敷地内の緑化 <b>2.0</b></p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) <b>27.6 %</b></p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) <b>0.0 %</b></p>
<p>②資源の有効活用 <b>2.9</b></p>	<p>④地域材の活用 <b>1.0</b></p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt; なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt; なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
有限会社大輪輸送 一宮配送センター

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:  
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
	重点項目								建物全体・共用部分	建物全体・共用部分
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.7</b>	
<b>Q1 室内環境</b>									-	
<b>1 音環境</b>									-	
1.1 室内騒音レベル		3.0	-	-	-	-	-	-		
1.2 遮音		-	-	-	-	-	-	-		
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-	-	-		
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-		
1.3 吸音		-	-	-	-	-	-	-		
<b>2 温熱環境</b>									-	
2.1 室温制御		-	-	-	-	-	-	-		
1 室温		3.0	-	-	-	-	-	-		
2 外皮性能		3.0	-	-	-	-	-	-		
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	-	-	-		
2.2 湿度制御		3.0	-	-	-	-	-	-		
2.3 空調方式		3.0	-	-	-	-	-	-		
<b>3 光・視環境</b>									-	
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-	-	-		
1 昼光率		3.0	-	-	-	-	-	-		
2 方位別開口		-	-	-	-	-	-	-		
3 昼光利用設備		3.0	-	-	-	-	-	-		
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-	-	-		
1 昼光制御		5.0	-	-	-	-	-	-		
3.3 照度		3.0	-	-	-	-	-	-		
3.4 照明制御		3.0	-	-	-	-	-	-		
<b>4 空気環境</b>									-	
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-	-	-		
1 化学汚染物質		3.0	-	-	-	-	-	-		
4.2 換気		-	-	-	-	-	-	-		
1 換気量		3.0	-	-	-	-	-	-		
2 自然換気性能		3.0	-	-	-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		3.0	-	-	-	-	-	-		
4.3 運用管理		-	-	-	-	-	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	-	-	-	-	-	-		
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-	-	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>									<b>2.9</b>	
<b>1 機能性</b>									-	
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	-	-	-		
1 広さ・収納性		3.0	-	-	-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	-	-	-	-	-		
3 バリアフリー計画	独自	3.0	-	-	-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-	-	-		
1 広さ感・景観 (天井高)		3.0	-	-	-	-	-	-		
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	-	-	-		
3 内装計画		3.0	-	-	-	-	-	-		
1.3 維持管理		-	-	-	-	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		3.0	-	-	-	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>									<b>3.0</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.5	3.0	0.52	-	-	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-	-		
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		0.3	3.3	0.33	-	-	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	3.0	0.23	-	-	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.09	-	-	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	5.0	0.15	-	-	-	-		
2.4 信頼性		-	3.0	0.23	-	-	-	-		
1 空調・換気設備		0.1	2.6	0.19	-	-	-	-		
2 給排水・衛生設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-		
3 電気設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-		
4 機械・配管支持方法	②	3.0	3.0	0.20	-	-	-	-		
5 通信・情報設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-		

<b>3 対応性・更新性</b>				<b>0.4</b>	<b>2.8</b>	0.48	-	-	-	<b>2.8</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>				<b>0.3</b>	<b>2.6</b>	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり			-	1.0	0.60				
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率=0.085<0.1	3.0	5.0	0.40				
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				<b>3.0</b>	<b>3.0</b>	0.31				
<b>3.3 設備の更新性</b>				<b>0.3</b>	<b>3.0</b>	0.38				
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17				
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17				
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11				
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11				
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22				
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22				
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>					-	0.57				<b>2.5</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		独自③		-	<b>2.0</b>	0.30				<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		独自④		-	<b>3.0</b>	0.40				<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				<b>0.3</b>	<b>2.5</b>	0.30				<b>2.5</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>		独自④		-	<b>2.0</b>	0.50				
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>				-	<b>3.0</b>	0.50				
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>										<b>3.3</b>
<b>LR1 エネルギー</b>					-	0.40				<b>3.5</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			BPI <sub>m</sub> =0.64	<b>3.0</b>	<b>5.0</b>	0.20				<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>				<b>3.0</b>	<b>3.0</b>	0.10				<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>			BEI <sub>m</sub> =0.78	<b>3.0</b>	<b>3.2</b>	0.50				<b>3.2</b>
<b>4 効率的運用</b>				<b>0.2</b>	<b>3.0</b>	0.20				<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価				<b>1.0</b>	<b>3.0</b>	1.00				
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50				
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50				
集合住宅の評価				-	-	-				
4.1	モニタリング			-	-	-				
4.2	運用管理体制			-	-	-				
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					-	0.30				<b>3.2</b>
<b>1 水資源保護</b>				<b>0.1</b>	<b>3.4</b>	0.15				<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>			節水コマ(泡沫キャップ)に加えて、省水型機器(節水型便器)を用いている	<b>3.0</b>	<b>4.0</b>	0.40				
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>				<b>0.6</b>	<b>3.0</b>	0.60				
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67				
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33				
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				<b>0.6</b>	<b>3.0</b>	0.63				<b>3.0</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>				-	2.0	0.07				
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>				-	3.0	0.25				
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		②	-	-	3.0	0.21				
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		独自	-	3.0	1.0	0.21				
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>				3.0	-	-				
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		独自	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている	3.0	5.0	0.25				
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				<b>0.2</b>	<b>3.6</b>	0.22				<b>3.6</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>				<b>3.0</b>	<b>3.0</b>	0.32				
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>				<b>0.6</b>	<b>4.0</b>	0.68				
1	消火剤			-	-	-				
2	発泡剤(断熱材等)		発泡剤を用いた断熱材を使用していない	-	5.0	0.50				
3	冷媒			3.0	3.0	0.50				
<b>LR3 敷地外環境</b>					-	0.30				<b>3.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		①	ライフサイクルCO2排出率90%	-	<b>3.4</b>	0.33				<b>3.4</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>				<b>0.3</b>	<b>3.3</b>	0.33				<b>3.3</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			ばい煙発生施設なし	-	<b>5.0</b>	0.25				
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>				-	<b>3.0</b>	0.50				
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>				<b>0.2</b>	<b>2.5</b>	0.25				
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25				
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25				
3	交通負荷抑制	独自		-	3.0	0.25				
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25				
<b>3 周辺環境への配慮</b>				<b>0.3</b>	<b>3.2</b>	0.33				<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>				<b>0.4</b>	<b>3.0</b>	0.40				
1	騒音	独自		-	3.0	0.50				
2	振動	独自		-	3.0	0.50				
3	悪臭			-	-	-				
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>				<b>0.4</b>	<b>3.0</b>	0.40				
1	風害の抑制			-	3.0	0.70				
2	砂塵の抑制			-	-	-				
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30				
<b>3.3 光害の抑制</b>				<b>0.2</b>	<b>4.4</b>	0.20				
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		屋外広告物照明設備がない	-	5.0	0.70				
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30				

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

有限会社大輪輸送 一宮配送センター

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.4</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.9</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:27.6%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 有限会社大輪輸送 一宮配送センター

計画上の配慮事項	
総合	長く建物が利用できるよう採用建材に配慮するとともに、高効率機器の採用など省エネルギーに寄与している
Q1 室内環境	評価対象外
Q2 サービス性能	耐用年数の長い建材を採用し、更新必要間隔に配慮した
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内には多くの緑地を設ける計画とした
LR1 エネルギー	効率の良い機器を採用し、省エネルギーに寄与している
LR2 資源・マテリアル	節水コマや省水型便器を採用するなど省資源に配慮した
LR3 敷地外環境	建物配置計画など敷地外環境への影響を考慮した
その他	特に無し